

令和5年度施設自己評価の結果について

公表：令和 6 年 3 月 11 日

事業所名

やまぼうし

国から示された「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき、事業所職員が自己評価を実施しました。
 事業所における課題点及び改善すべき点を今一度確認し、今後の当会及び当事業所の運営に活かしていきます。
 今後ともご家族様と共によりよい事業所を目指していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	0	子ども達の身体成長に伴い、バギー上での生活が遊びのスペースを狭めてしまう為、園庭などへの分散活動を心掛けている。	子ども達の安全を考えると、バギーや座位保持椅子の利用は今後も必要である。 大型化するバギーの置き場所を検討していく。
	②	職員の配置数は適切である	6	1	0		法的な配置基準は満たしているが、児童の特性が様々であり、分散した活動を行う際には人員が必要になることがある為、ごでまり職員に応援を要請していく。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	0		トイレ内には空調が届かない為、おむつ替えの際に室内との温度差がある。 体温調節が苦手な児童も多いため、扇風機などの簡易な空調機材の使用を試みたい。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	0		
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0		
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	0	4	第三者評価を行っていない為、法人内内部監査で受けた指摘事項を改善に繋げている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0		
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0		

適切な支援の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	1		アセスメント結果をいただく事が多いので、結果の解釈を事業内での生活になぞらえてできるようになることも大切だと考えている。関心のある職員からでよいので、アセスメント結果の解釈を学ぶ機会を設けていきたい。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	利用している児童の特性が様々であるが、できる限り特性に合わせた支援を行う工夫をしている。	計画をしているが、予定通りに実行されないことがあるため、今後は緻密な話し合いを行っていく。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	0	支援の対象児童によっては、年単位での繰り返しが必要な児童もいると考え、活動を組み立てている。	対象児の特性に幅があり、ある程度のスピード感を持って活動内容を進めていく事の必要な児童のプログラムが難しいことがある。利用児童全員で集団活動することに捕らわれず、課題に応じて柔軟に取り組んでいきたい。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	0		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
適切な支援の提供	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0		夏休みなど長期休みは打ち合わせ時間や記録の確保が難しくなるので、長期休み前に確認する時間を設けていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	0	長期休みの期間は当日の振り返りができない為、できる限り記録に残し共有するようにしている。	長期休み時は子ども達を終日お預かりするので、もう少し振り返ることのできる時間設定を考えていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	7	0	0		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0	児童発達管理責任者が出席している。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7	0	0		

関係機関や保護者との連携	⑳	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1	0		保護者を通じて主治医との連絡は取っているが、医療的ケアを行う立場としてはもう少し詳しいな情報を聞きたいこともある。現在の書式や記録内容について見直しをし、加筆するなどの機会を設けていく。
	㉑	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との情報共有と相互理解を努めている	5	2	0		
	㉒	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	0		
	㉓	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	0		
	㉔	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	2	0	今年度、初めて地域の学童クラブとの交流をもった。子ども園の園児とは交流機会を持つように年間計画を立てている。	
	㉕	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	3	4	0		現在自立支援協議会の子ども部会は開催されていないが、昨年度よりこども・やまぼうしの代表1名が基幹相談の開催する地域会合に出席している。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共有理解を持っている	7	0	0	帰りは直接迎えに来て頂いているので、必要事項はその時に伝えることができる。	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	1		
保護者への説明責任等	㉘	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0		
	㉙	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0		
	㉚	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	懇談会は必ず開催している。	
	㉛	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
	㉜	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	毎月の通信やブログを作成している。	
	㉝	個人情報に十分注意している	7	0	0		
	㉞	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
	㉟	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	0	コロナ5類移行に伴い、長期休暇時にボランティアの方の協力により、地域への外出が経験できた。	

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2	0		
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	かきのみ防災計画に沿って毎月行うようにしている。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	6	1	0	指針に従い、安全のためであるのかを常に振り返っている。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0		
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	0		

